

Dependent Atmosphere

座長: Dr. E.C. LaFond, U.S.A.

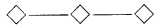
日時: session A) 8月29日, session B) 9月5日,
session C) 9月2日, session D) 9月3日.

30. Oceanic Optics

座長: Dr. N. Jerlov, Denmark.

日時: 8月29日, 午前と午後.

なお詳細なことは, 岸保勘三郎(東京都文京区弥生町
2-11-16, 東大理学部地球物理学教室)までご連絡下さ
い. また抄録を送付される方は写しを岸保まで送付して
下さい.



IAMAP Secretary: Dr. W.L. Godson の住所
Atmospheric Environment Service 4905 Dufferin
Street Downsview, Ontario, Canada

IAMAP (lead Association) シンポジウム座長住所

16. Dr. J. Charney, Meteorological Department,
Massachusetts Institute of Technology, Cam-

bridge, Mass., U.S.A.

18. Dr. R.W. Stewart, Director-General, Pacific
Region, Ocean and Aquatic Affairs, 512
Federal Bldg., Victoria, B.C., Canada.

19. Dr. B.R. Bolin, Arrheniuslaboratoriet, Fack,
S-104 05 Stockholm, Sweden.

21. Dr. C. Junge, Director, Max-Planck Institut
für Chemie, Postfach 3060, D-65 Mainz,
Saarstrasse 23m, West Germany.

22. Dr. J.B. Gregory, Physics Dept., University
of Saskatchewan, Saskatoon, Sask. S7N 0W0
Canada.

31. Dr. H. Dolezalek, 1812 Drury Lane, Hollin
Hills, Alexandria, Virginia, 22307, U.S.A.

32. Dr. H.K. Weickmann, 603 Wewoka Drive,
Boulder, Colorado, 80302, U.S.A.

Dr. R. List, Atmosphärenphysik ETH, Hög-
gerberg HPP, 8049 Zurich, Switzerland.

==== 講演企画委員会だより ====

夏期大学講座を省りみて

第8回夏期大学講座は7月29日~8月1日気象庁講堂
において催された. 今回は気候変動を特集した. このテ
ーマは一般国民にも大いに関心をもたれつつあり, 且,
講師陣も各々名の知られた方々のためか, 参加者は教員
を主体にして従来にない多数の参加を得ることができ
た.

当日会場において実施したアンケートをまとめると次
のとおりである(回収枚数56)

• 夏期大学の出席回数

① 始めて 33人 ⑤ 2回 11人
② 3回 8人 ⑥ 4回以上 4人

• 夏期大学出席の目的

① 教育のため 17人 ⑤ 自分の勉強 40人
② 興味がある 15人 ⑥ その他 1人

• 講義の程度

① むずかしい 12人 ⑤ やさしい 9人
② ちょうどよい 34人

• 1人の講師が2時間30分講義するのは

① 長い 9人 ⑤ 短い 7人
② ちょうどよい 40人

• その他特徴的な意見として次のものがあつた.

• 今後気象と人間, 社会とのかかわりあいみたいなの
のをのぞむ. 根本さんの異常気象と社会などおもし
ろかった.

• 「現場」の気象にじかにふれたと思う.

• 見学は中途半端, 実験実習など入れてほしい.

• 7月下旬は学校の行事が多いので8月下旬にしても
らいたい.

• 今後の希望

気象衛星, 雲物理, 集中豪雨等があつた.

• その他会場設置(マイク, 黒板の使い方, テスト
(ミスプリ, 配布))について批判があつた.

全体としては好評でこのような企画を続けてもらいた
いという意見がたくさんあつた. これらアンケートは今
後の参考にしていきたい.